明海大学 不動産学部

## 不動産の話題 [85]



学生と教員の息が

形成地区にたつKAGUR 造物が集まるエリア、景観 今年度は、佐原の伝統的建

するならば2階を客室とし

て使うことも選択肢になり

A棟を製作している。 この

ており、時間の重みを感じ 【アピールポイント】

基礎を学びつつリフォ で前島ゼミでは建物の 空間デザインが好き

ることができた。特に印象 的だったのは、壁の素材や 極力残し、歴史の風合いを もともとリフォームに興味 が印象に残っている。私は 大切にしたい」という言葉 ムをやる予定です。 当地の歴史を今に伝えてい ョンとレストランの機能を もち、醸造業が盛んだった 建物は佐原で展開されてい る分散型ホテルのレセプシ

「リフォームは直すだけじゃない」

るかたちのリフォ

よい状態に整えて基礎の更

耐震面では施工環境をより をもって実現するために、

ームとは異なり、

報告している。 しい材で置き換え

けたときのことを

トランとして確かな安全性

利用するレセプションレス

的な大空間を、多数の人が

元酒蔵がもつ機能的で伝統

地域の暮らしとひもづく

KAGURA棟で学んだ建築姿勢

クリートの新たな基

屋根裏には、火災時の延焼 感した。 古い材が生み出す当時の雰

根本から安全性を高めてい 礎を構築し、構造の

快適さを保ちつつ、柱や梁 れている。内装は現代的な た。この様子からは、 た」印象が強く残った。 えない部分まで丁寧に直し 音ながらのデザインが残さ 外観は美しく整えられ、 見 を防ぐための防火壁が新た に設けられていた。現代の いると感じた。 的価値の両立が実現されて 対策により、安全性と歴史 建築基準に即したこうした 関係者の「残せるものは 域との関係を探っている。 製作を通して、その不動産 が建てられた時代背景や地 【教員による展開 (前島彩子教授) ゼミ活動では構法模型の 央部分に 2階床を備えてい た。ホテルの収益性を重視 インを考察している。 て、リフォームの空間デザ 囲気と、その安全な利用を 下支えする基礎工事をあげ この元酒蔵は、建物の中

が崩れかけていた。リフォ 物は、台風災害などで一部

れていた揚屋ではなく、よ

ーム工事では、当初予定さ

文化の一端を担っていた存

在であると理解できた。

長く未活用だったこの建

の古い建物ではなく、地域 の歴史を知ることで、ただ して地域の暮らしと関わっ

あるため、鉄筋コン

では耐震性に不安が 石場建てや石の基礎

ていたことを知った。建物

める中で、かつては酒蔵と

からなかったが、調査を進 がどう使われていたのか分 を訪れた。当初はこの建物 ション「KAGURA棟」

ンクリート基礎を新設する

業空間を確保し、地中にコ

イド移動させることで、作

ための工程である。旧来の

再現していた点だ。さらに

またデザインである」と実、ホテル支配人から説明を受

し、当時の雰囲気を忠実に 構造材を可能な限り再利用

があったが、今回の調査で

「古いものを生かすことも

観光まちづくり会社の人と

黒越さんは現地調査で、

間は失われてしまう。

黒越さんが指摘している、 は断念されることになり、 は耐火材で覆われ木の現し 場合、防火の観点から木部 得たそうだ。ただし、その

「時間の重みを感じる」空

NIA佐原商家町のレセプ

現地調査で、NIPPO

を一度持ち上げて横にスラ

【学生の見方&考え方】 (3年 黒越陽向

み出すリフォームあり方が

全性の確保、この両立が生 後にある丁寧で根本的な安

述べられている。

されている。利用者の目に

設置することで延焼に対応

裏となる2階部分に隔壁を 新を行い、防火面では小屋

写る部分の歴史性とその背

【訂正のお知らせ】新聞記事に一部誤りがありました。

正:不動産の話題 誤:不動産の話題 [86] [85]